

みどりの食料システム戦略

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

- 我が国の食料・農林水産業は、大規模自然災害や地球温暖化、生産者の減少や地域コミュニティの衰退、新型コロナを契機とした生産・消費の変化への対応などの厳しい課題に直面しており、農林水産業や地域の将来を見据えた持続可能な食料システム構築が急務となります。
- このため、農林水産省は中長期的な観点から、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、令和4年6月に中間目標を決定しました。
- 令和4年4月22日に「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が成立し、5月2日に公布され、7月1日に施行されました。

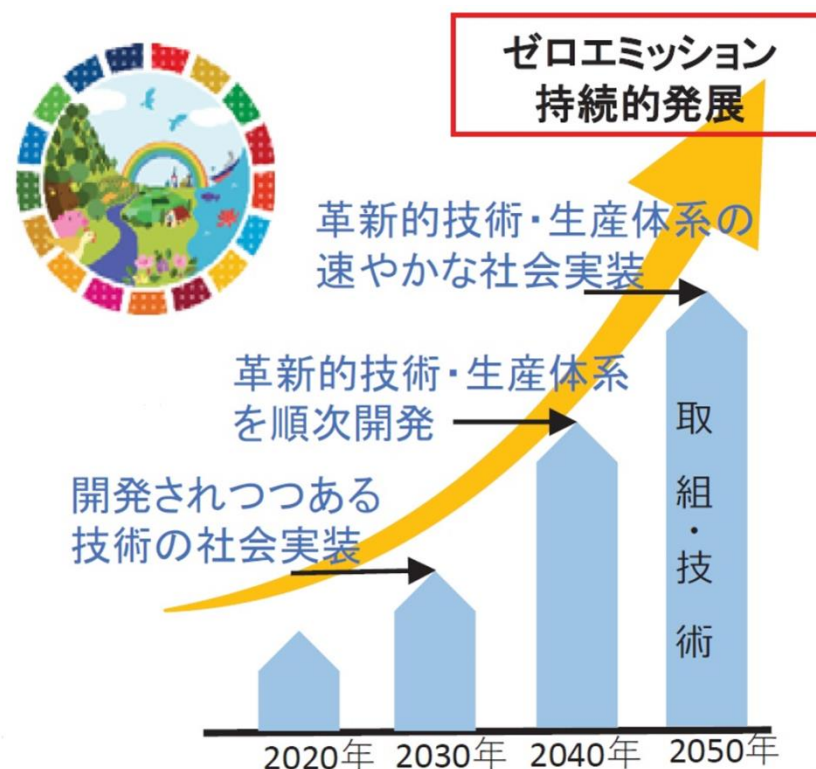
2050年までに目指す姿（2030年までの中間目標）

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現（10.6%削減）
- 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減（10%低減）
- 化学肥料の使用量を30%低減（20%低減）
- 有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大（6.3万ha）
- 2030年までに持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現（100%）
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大（3割以上に拡大）
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現（13%）等

目標の実現に向けて～政策手法のグリーン化～

- 2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会）の実現、生物多様性目標への貢献
- 国際的な議論（国連食料システムサミットやCOP26等）に貢献することにより、持続性の取組モデルを発信
- 地域の所得向上や豊かな食生活、コロナへの対応により、持続的な地域の産業基盤を構築

※ みどりの食料システム法により認定を受けると、資金調達（日本政策金融公庫による無利子・低利融資）や設備投資の初期負担軽減（税制の特例）があります。



資料：農林水産省

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

県内の生産者団体、流通関係者、消費者団体、行政などを構成員とした「みどりの食料システム戦略推進鹿児島連絡協議会」による「みどりの食料システム戦略」の推進

主な取組の概要

- R4年4月 発足式（27団体）
- R4年10月 第1回情報交換会開催
- R4年11月 「オーガニックフェスタかごしま2022」に参加しみどり戦略をPR
- R4年11月 生産と消費をつなぐ交流として「環境にやさしい農業体験（有機じゃがいも収穫・有機たまねぎ植付）」を実施
- R5年1月 第2回情報交換会開催（生産・流通・消費別の分科会形式）
- R5年5月 環境にやさしい農業の消費者理解と構成団体による独自の取組を促進するため、協議会構成団体を対象にした「環境にやさしい農業体験（有機たまねぎの収穫・有機さつまいも苗の植付）」を実施
- R5年7月 交付金事業の活用を促進し環境に配慮した栽培暦の見直しにつなげるため、県内で「みどりの食料システム戦略推進交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート事業）」に取り組んでいる自治体や農業団体等が参加した「現地研修会」を実施



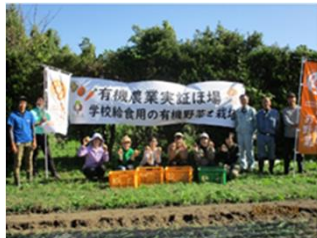
みどりの食料システム戦略推進の鹿児島県内の取組HP
<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/midori.html>



情報交換会



オーガニックフェスタ



環境にやさしい農業体験

みどりの食料システム戦略を踏まえた 資材価格高騰への対応

「JA鹿児島県経済連による地域資源を活用した肥料の開発と供給」

取組の概要

JA鹿児島県経済連では、化学肥料の原料価格高騰に対応するため、畜産堆肥を活用した低コスト肥料（堆肥と化学肥料を混合したペレット肥料）を開発し、令和4年7月1日から供給を開始しました。

開発した低コスト肥料は、茶用の「ミドリッチ茶1号、ミドリッチ茶2号」、園芸用の「アグリッチ888」等で、20キロ袋で令和4年秋肥の化学肥料と比べ価格を約15%～約30%低減しました。粒状化したことで散布が容易となり、作業負担も軽減しました。

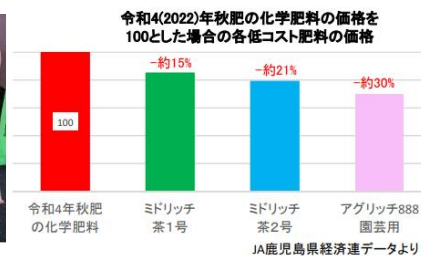
現在では、野菜、果樹、水稻、さとうきび、かんしょ用も供給しています。



混合ペレット肥料



ミドリッチ茶1号、ミドリッチ茶2号、アグリッチ888



また、JA鹿児島県経済連とJA全農みやぎは、令和5年2月、堆肥ペレットと稲わらの広域流通の実証試験を開始しました。鹿児島からはペレット状にした堆肥を宮城へ、宮城からは家畜の餌となる稲わらを鹿児島へそれぞれ広域流通します。これら取組を通じ、広域的な循環型農業の実現を目指しています。



稲わら



堆肥ペレット

